

はじめに

今回の東大研修では自分が思った以上の収穫がありました。

そもそも私は修学旅行がない仙台二高で、仲間たちとの思い出をつくり、勉強を頑張るための何かを得て、意義を考える機会にしようと思ってました。しかし、実際に入ってみるとその他に企業大学訪問がありました。その際に私たちの班はアポ取りに何度も失敗して、うまくいかない辛い思いをしていました。そして、集会がありディレクトフォースの話がされました。「三菱や新日鐵のような超一流企業のアポをこちらで用意しました。」と言われた時、ひとつ決まったという安堵が身を包みました。

今回は特にディレクトフォースと企業研修のセルシードが印象に残りました。

ディレクトフォース

世界には何十億もの人がいて、何万人もの人が務めている。だが、そのなかで更に本社の、しかも会議室に足を踏み入れることができる、というチャンスを得ました。これは、二高の OB が様々な分野のリーダーとして成長していることの表れであり、幅広い人脈があればこそであると思います。これを受けて私たちも先生方の期待に答えるべく、二高生の自覚を持つようと思いました。

そして、私たちの班では新日鐵住金に訪問することに決定しました。東京駅から歩いて五分ほどのとても良い場所の立派なビルは、都会を感じさせるもので、見上げれば一流企業への憧れがわいてきました。

1 班の私たちは、あまりに広くて、綺麗なロビーを緊張してぎこちなく進みました。受付に立っている警備員の爽やかな挨拶、エスカレーターからくる社員の放つオーラに圧倒されました。

トイレに行こうとした時に、トイレまでの通路もセキュリティがあり驚きました。普段と違う環境で、自分たちはこんな素晴らしいところに務めている人たちの話が聞けると思うと期待がつのりました。

そして、今回の 4 人の人のうち 3 人が二高の OB でした。全員運動部に所属しており、文武一道の精神を大切にしていました。運動部だと勉強するのは難しいと思っていました。しかし、社員の様子を見るとその考えは逆だったのだらうと思。中途半端に取り組んでいては、勉強と部活は両立どころか総崩れになってしまいます。しかし、新日鐵住金の社員さんの様に部活にも全力で取り組む意気込みがあれば、結果として両立になるのだと思います。

私は前者に近い考えだったのですが、自分のやりたいことが何かを考えて、自分の思ったように行動してみたいと思います。また、「やった後悔よりやらなかった後悔の方が大きい」という言葉もあるくらいなので、中途半端はやめて、新たなことに挑戦してみたいと思います。

仕事の話でいえば、四人はそれぞれの部署でした。また、新日鐵住金は素材を作っているところです。例えばアルミ缶など、私たちに出された缶のお茶もその容器を新日鐵住金が作っているそうです。しかし、当然このような部署だけではありません。広報や法務など、「つくる」以外の仕事も、とても大規模でした。

法務という言葉はあまり馴染みがなかったです。その人の話によると、京大法学部受験失敗の悔しさがあり、法関係の仕事をやりたいと、法務になったそうです。話を聞いていたら、訴訟等で億の金がからんだり平然と言っているのを聞いてたいへん驚きました。普段の生活では耳慣れない額のお金が自分の手で動くかもしれない。そのために、未然に防ぐための話し合い。その責任感や緊張は並大抵ではないと思います。巨額の出費を扱う部署は、大企業の経営になくてはならないと感じました。自分には到底できない仕事だと思っています。

また、広報の千葉さんは、マスコミへの対応や一般の人への紹介が仕事です。広報は私たちにむけての仕事なので、身直に感じます。だら、良くも悪くも会社の顔となってしまいます。つまり、広報次第で会社の印象は大きく変わります。逆にマスコミへの対応が乱雑だったりすると、メディアの格好のエサとなってしまいます。そ

のような責任も伴います。

吉住さんは、「すべての社員が広報」というのが目標であるとおっしゃっていました。それぞれが外部への意識をすることで、会社の中で一体感が生まれて、より良い会社になるのだと思います。チームワークを活かすことはあらゆる場面で必要になると思います。

また、技術の黒澤さんは震災復興で防波堤を担当しているそうです。鋼矢板の試作もしていると聞きました。また、新商品の開発は常に試作の繰り返しで大変だなと感じました。復興などに大企業で携われるのはとても素晴らしいことだと思いました。私も地元のために働きたいです。そして、上海や香港でも強い鉄を作るためのレクチャーもしているそうです。

さらに、佐藤さんはメカニカル鋼管を担当されています。軽量化をめざして開発し、国内外の自動車メーカーに部品を売っているそうです。そのため、発売を見越してニーズに応えるので、誰も正解が分からない。それを審議・探究するのが達成感に繋がるようです。

その人が紹介していた言葉に「百忍千鍛事遂全」というトヨタの社長の言葉がありました。これには、とても共感できると思いました。まず百忍千鍛をするようにしたいと思いました。

このような4人の話が終わり、いったん休憩になりました。その時に、前の方でブロックがあり、触ってみると表面がツルツルしていました。また、鉄なのでずっしりとした重みがありました。

その後に話し合い活動を社員の人を混ぜてやりました。テーマは「今力をいれて取り組んでいること」、「メーカーへの力にどうなれるか」ということでした。私たちのところには前半に千葉さんが来ました。さりげなく手を組んだ時に見える腕時計が高級そうでした。近くで見ると、爪も綺麗で、とてもしっかりとしていました。

そして、実際の話し合いではあまり積極的に話そうとする人が出ないこともあり、千葉さんに頼る形になってしまい、少し申し訳なかったです。こういうところの積極性を出せるようにしたかったです。

出た意見は、やはり部活を頑張っている人が多かったです。次に勉強を熱心に取り組んでる人が多かったです。それぞれが、今についてしっかりと考えを持っていたので驚きました。恥ずかしながら私は遊びに力を入れてきました。しかし、それは無駄ではありません。私なりの考えがあります。もちろんただ毎日の様にゲーセンで遊ぶという訳ではありません。机ではできない学びをすることをいっているのです。高校生は中学よりもずっと忙しく、学年が上がるとさらに忙しくなると思います。だから、遊べるのは高1の夏こそだと思います。中学校の時の友達と会える数少ない機会であり、私にとっては中学校の友達を大切にするのは、勉強より大切だと思っています。一生付き合えたらと思います。そのような人と共に過ごしたり、い

ろんな団体に参加してみたり、新しいことに挑戦することからは学ぶべきことは数限りなくあるはずですよ。

この学びから、メーカーへは、会社の人とのコミュニケーションや柔軟な発想、あらゆる人の立場にたって考えることなどに役に立つと思います。

しかしながらというべきか、当然というべきか、このような意見の人は班の中には自分だけでした。

班全体としては、部活については仲間との協力、課題設定能力などの力になる。

勉強については、短時間でどうするという、効率の良さや苦手を克服しようとする諦めず物事に取り込むといった点が挙げられました。

以上の話し合いをそれぞれの代表者がスピーチして、ディレクトフォーは終了しました。

とても充実した時間を過ごせました。そこからでるときにはビルに入ってきた時とのオドオドではなく、これからの希望を胸に堂々と出れた気がします。

私は当初不安だった東大研修に参加できたことを今はとても満足しています。新日鐵住金のみなさま、先生方、今回の旅行に携わってくれた方々に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。